

保健体育（小）部会

I. 研究の概要

研究主題

運動好きの子どもを育てる体育授業の実践 ～子供の意欲を高め、考えを深める「ゆさぶり場面」を通して～

主題設定の理由

令和6年度の「全国体力・運動農能力、運動習慣等調査」の結果によると、北海道の児童は、体力合計点では、女子を除いていずれも体力合計点の低下が見られ、男女ともに全国平均を下回っている。しかしながら、男女ともに全国との差は縮まっている。

児童質問紙では、「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童は、全国平均とほぼ同じ割合であり、ICTを使って学習することで「できたり・わかったり」することがあると回答している児童は、全国平均を上回っている。

その反面、目標（ねらいやめあて）を意識して学習することで「できたり・わかったり」することがある、友だちと助け合ったり教え合ったりして学習することで「できたり・わかったり」することがあると回答している児童は、全国平均を下回っている。

このことから、単に体を動かすことのみならず、目標を意識させたり、対話を通して児童の考えを深めたり広げたりする授業づくりが求められている。

研究仮説

児童の意欲を高めたり、考えを深めたりする「ゆさぶり場面」を取り入れ、「わかる・できる」を体験することで、運動に親しみ、運動好きの子どもを育成できるだろう。

目指す子ども像

- ・ 見通しをもち、課題解決に向けて意欲的に学習する子ども
- ・ 互いに関わり合いながら、技能を身に付けたり考えを深めたりする子ども

研究内容 1

「ゆさぶり場面」を取り入れた授業実践の検証

研究内容 2

「わかる・できる」活動に結び付けている実践の紹介

研究方法

- ・ 年度初めに研究計画を確認し、全会員が1年間の中で実践を重ねる。
- ・ 石教研第二次研究協議会において、中心サークルは公開授業及び、資料提供をする。これをもとに、これまでの各自の実践の成果と課題を踏まえながら全会員で論議し、仮説検証をする。
- ・ 全員の實踐記録をGoogle Workspaceに集約し、データを閲覧できる環境を教える。
- ・ 互いの資質向上のため、会員のニーズに応じた理論実技研修会を企画・運営する。
- ・ 全会員に、体育授業の様子や部会研究について理解してもらうことを目的として、授業づくりサポート研修を企画・運営する。
- ・ 部会情報「GOAL」を発行し、各市町村の活動状況等の紹介と交流を図る。
- ・ 小委員会を開き、学習指導要領に基づいた教育課程の編成等、会員や学校に有益な活動を行う。
- ・ 役員研修会、推進委員研修会を効果的に配置し、円滑に研究推進が図れるように配慮する。
- ・ 本研究は令和7年度、8年度の2か年計画とする。
- ・ 各市町村の研究計画と調整を図り、推進委員研修会において共通理解を深めながら同一課題をもって研究を進めていく。

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 研究経過

4月15日	石教研専門部会第一次研究協議会 第1回役員・研究推進委員研修会	(恵庭市立江陽中学校) (石狩教育研修センター)
5月13日	石教研専門部会役員研修会	(中央小学校)
5月20日	第2回役員・研究推進委員研修会	(石狩教育研修センター)
6月10日	ホームページ担当者研修会	(北広島市立北の台小)
6月17日	授業づくりサポート研修会	(石狩教育研修センター)
6月27日	第1回専門部会事務局長研修会	(石狩教育研修センター)
7月11日	理論実技研修会・第3回役員研修会	(北広島市立北の台小学校)
7月18日	第4回役員研修会・第3回推進委員研究会 第1回教育課程委員研修会	(江別市立中央小学校)
8月下旬 ～9月上旬	各市町村研究協議会	(各市町村小学校)
9月16日	第5回役員研修会	(石狩教育研修センター)
9月22日	拡大役員研修会	(石狩教育研修センター)
10月16日	第1回小委員研修会	(千歳市立日の出小学校)
10月17日	石教研専門部会第二次研究協議会	(千歳市立日の出小学校・高台小学校)
11月6日	第6回役員研修会	(石狩教育研修センター)
1月	第7回役員研修会・第4回推進委員研究会	(石狩教育研修センター)
2月	各市町村第三次研究協議会	

(2) 研究成果

昨年度までの研究であるICTを積極的に活用する実践が多くみられた。課題設定や自分の動きを確認する等、映像によるICT活用の有効性を再確認することができた。また、それが今年度の研究である子どもの意欲を高めたり思考を深めたりするゆさぶり場面につなげることができた。

また、各市町村のレポートによって、部会員の実践や指導の工夫を広く知ることができた。引き続きGoogle Workspaceを活用することで領域ごとに整理し、活用しやすいレポート集となっている。

2. 専門部会第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会第二次研究協議会での交流内容（高学年）

授業公開の様子（高学年）

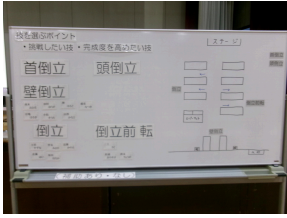

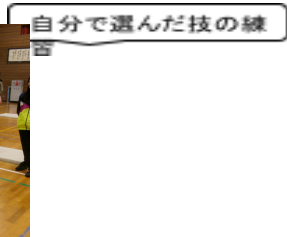



5年生 単元「器械運動(マット運動)」

授業者:小野寺 彩 教諭(千歳市立高台小学校)

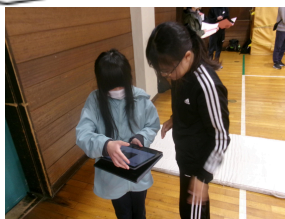
本時の目標:友だちからのアドバイスやワークシート、動画で自分の動きを比較し、技ができるためのポイントを

見いだしている。

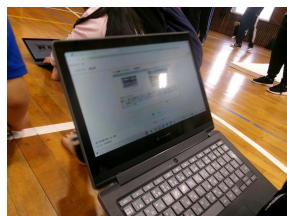
本時の様子

主なねらい・学習活動	教師の指導 (・)	支援 (○)	学習評価 (◆)
1 場の準備 2 あいさつ・学習の流れの確認 3 準備体操 (ねこちゃん体操) 4 課題の確認			
<p>課題：倒立技ができるために自分にとって大切なポイントは、何だろう。</p>			
5 技の確認 6 練習する技を決める 7 グループで練習		・ 4つの技から自分に合った技を選ばせる	
・ 自分の練習したい場所へ移動し練習する ・ ICTを活用し、自分の動きを確認、アドバイスをもらう。			
	「お手本動画とどこがちがうかな？」 (ゆさぶり場面)		

ワークシートやお手本動画などをもとにアドバイスし合う。



8 振り返りをする



9 次時の確認

10 あいさつ、後片付け

ICT を活用した協働学習



- ・ オクリンクプラスの振り返りシートを活用し、学習を振り返らせる。
- ・ 振り返りシートに今日の成果（動画）を添付し提出させる。
- ・ 振り返りシートは、毎時間蓄積し、次の時間の学習につなげさせる。

「次はこれをやってみよう！」(ゆさぶり場面)

- ・ 数名に発表させる。友だちの振り返りを見て、共通点・相違点などに着目し発表させることで、学びを深める。
- ・ 次回の授業の内容を確認し、自己の課題を明確にする。

(2) 高学年授業分科会での協議内容

1) 授業者・共同研究者から

児童アンケートの結果から、興味関心が高かったため倒立を課題とした。ICTの活用は効果的であるが運動量の確保に心配があった。練習に夢中になり比較検討が難しくなる場面も予想され、ややその通りになってしまったが、準備運動、場の設定、ICTの活用全てに意図がある授業づくりを行った。ゆさぶり場面は思わず正解を言いそうになってしまった場面もあったが子どもたちから言葉を引き出そうと努力した。もっと良い意見があれば聞きたい。

2) 成果と課題

研究内容1に関わる視点

- ・ 「ゆさぶり場面」は、子どもの意欲を高めたり、考えを深めたりするのに有効であったか。
- ・ ICTの活用は、「協働的な学び」「個別最適な学び」の手段として有効であったか。

[成果]

- 手本動画を見たり、自分を客観的に見たりすることができ、ICTの活用は効果的であった。
- ICTは協働的な学びとの親和性が高い。
- 準備体操がマット運動の感覚をつかめるものになっていて良い。低学年からの積み重ねにより恥ずかしがらずに行っていた。

[課題]

- ▲ 子どもたちがどれくらいポイントを押さえ理解していたのか。一度活動を止め集まって確認する場面があってもよかった。運動量の確保は十分すぎた。
- ▲ ゆさぶり場面から学習課題へつながっていたのか。子どもたちからもっと早い段階で「目線」というキーワードに気付かせる必要があったのではないか。
- ▲ けが防止の観点から、教える場面、ゆだねる場面、と使い分けが必要。

3) 助言者から

- ねらいから外れない授業であった。「ポイント」というキーワードにこだわって口にしていたので焦点化を図る効果となり子どもたちの活動が明確になっていた。
- ICT、話し合い、振り返り等たくさんの方が盛り込まれていたが運動量がしっかり確保されていた。
- 洗練された指示と助言で授業者がしゃべりすぎる授業となっていなかった。
- ▲ 何のためのゆさぶりか、必要感のあるものか吟味する必要がある。

(3) 専門部会第二次研究協議会での交流内容（低学年）

授業公開の様子（低学年）

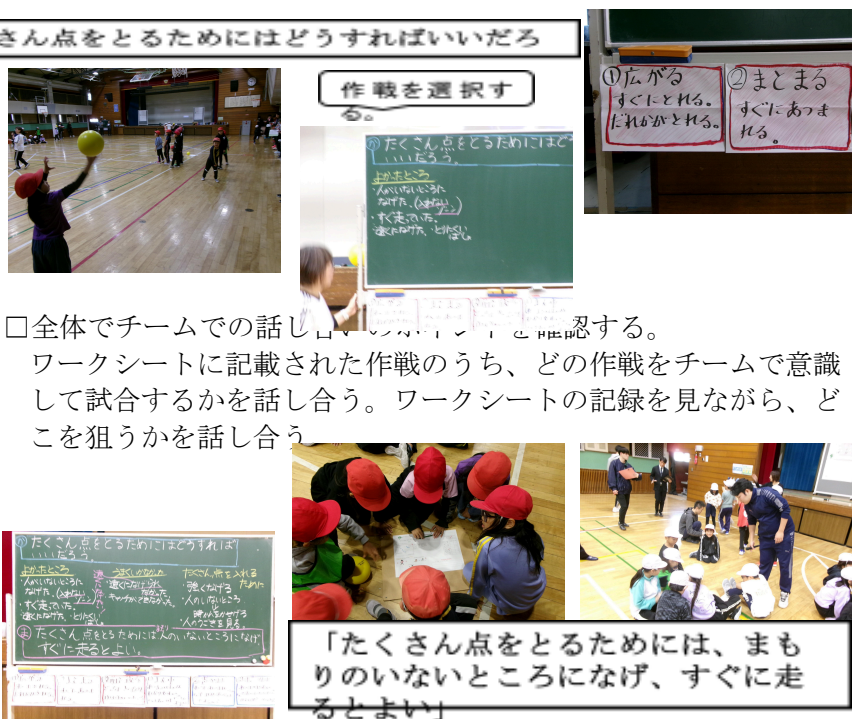
3年生 単元「ゲーム」

授業者:T1 野澤 航平 教諭(千歳市立日の出小学校)

T2 川越 有紀 教諭

本時の目標:ボール投げゲームの中で、攻めを場や規則に合わせて工夫している。

本時の様子

主なねらい・学習活動	教師の指導・支援・学習評価(◆)
<p>○準備体操</p> <p>○練習</p> <p>○めあての確認</p> <p>○攻め方の作戦を話し合う</p> <p>○試しのゲームをする</p> <p>○チームで作戦を話し合う</p> <p>・試しのゲームで良かったプレーを取り上げる</p> <p>「どう動いているかな?」「なんで点をとれたんだろう?」(ゆさぶり場面)</p> <p>○片付け</p> <p>○振り返り</p> <p>・ワークシートでチームごとに活動を振り返る。全体で交流する</p> <p>○まとめ</p>	<p>めあて 「たくさん点をとるためにはどうすればいいだろう」</p> <p>作戦を選択する。</p> <p>全体でチームでの話し合いを行い、作戦を確認する。ワークシートに記載された作戦のうち、どの作戦をチームで意識して試合するかを話し合う。ワークシートの記録を見ながら、どこを狙うかを話し合う。</p> <p>「たくさん点をとるためには、まもりのいないところになげ、すぐに走るとよい」</p> 

(4) 低学年授業分科会での協議内容

1) 授業者・共同研究者から

楽しく「ボール」の授業を進めるためにはどうしたらよいか考えてきた。ボールの選択をさせたり、投げることを重視させたり、投げることを重視したりなど工夫することができた。途中で動画を見たことで、本番のゲームで人がいないことに投げるなど反省を生かさせていた。作戦を変えたかどうかを確認しなかったことや、話過ぎたことが課題。

2) 成果と課題

研究内容1に関わる視点

- ・ ゆさぶり場面のチームでの話し合いは、子どもの思考を深めるために有効であったか。
- ・ 場や規則の設定は、子どもの意欲を高めるために有効であったか。

【成果】

- ベースボール型につながる内容でよかった。場の設定もよい。
- 3つの作戦から選ぶという活動が低学年の発達段階に合っていた。指導者もその3つが得点につながるという一貫とした指導をしていた。
- 動きの振り返りを動画で行ったことが可視化できてよかった。児童の思考が深まり、よいゆさぶり場面だった。

【課題】

- ▲ ルールについては児童の実態に合わせてまだまだ改善できる余地がある。
- ▲ 0点となる人がいないような手立てがあるとよかった。
- ▲ 遠くに投げるメリットを感じさせるためには、入れないゾーンの設定をもう少し工夫できたのではないか。

3) 助言者から

- 学習指導要領を見ると、低学年・中学年の目標は「作戦を選ぶこと」となっている。今回の授業は3つの作戦から選ぶことだったので適切だったと思う。

- ▲ ゆさぶり場面を設定することで「わかる・できる」につながると読み取れるので、一単位時間、難しくければ単元を通して子どもが「わかった！できた！」と思えるような授業にしたい。
- ▲ 作戦、課題の設定、振り返り、どれも「チームとして」「個人として」の2つがある。指導者としてどちらをねらっているのか、またはどちらもねらっているのか、はっきりさせることが大切。

(5) 研究内容についての交流内容

1. 「子どもの意欲を高め、考えを深める『ゆさぶり場面』を通した授業実践の検証」

〔成果〕

- 各市町村・各学校において、研究内容を意識した授業実践を積み重ねることができた。
- ICTを活用して自分やチームの動きを視覚的に捉えることは「わかる」につながり、効果的であった。
- 学年に応じた作戦の立て方や選び方をしたことで、子どもが意欲的に取り組むことができた。
- 指導者が一貫したポイントを褒めたり指導し続けたりすることで児童が課題達成に向かうことができた。

〔課題〕

- ▲ 課題に迫るゆさぶり場面のあり方。指導者がねらいをはっきりさせる。
- ▲ 実態に応じたルール工夫や、教える場面と練習に取り組む場面等の時間配分の工夫。

「『わかる・できる』活動に結び付けている実践の紹介

〔成果〕

- 研究内容を意識した実践レポートを多数掲載することができた。
- Google Workspaceで領域別に整理されているので、見やすく活用しやすくなった。
- 色々な領域で、苦手やつまずきの背景から「わかる・できる」活動に結び付く、場の設定やルール、練習方法等が紹介されていた。

〔課題〕

- ▲ 領域によって、実践の数に差がある。
- ▲ レポートのテーマが「わかる・できる」からずれているものがあり、話し合いの視点と合わないことがある。レポートのテーマの周知徹底が必要。

III. 教育課程研究

〔成果〕

各校で教育課程を参考にしながら柔軟に対応し、特に問題なく取り組んでいた。

〔課題〕

教育課程は、それぞれの学校が児童の実態や地域の特性などに合わせて工夫して組んでおり、抱えている課題も学校によって様々であり、柔軟な対応は必要である。作成した教育課程を各学校に提示して参考にしてもらうことはできているが、反対に各学校が抱える課題を吸い上げて改善方法を考えるというところまでは至っていないのが現状である。石狩管内として教育課程がどうあるべきかを考えて維持するとともに、各校が抱える問題についても、みんなと一緒に考えられるような体制づくりが課題である。

IV. 実技・理論研修会

1. 研修会の内容

7月11日（金）に北広島市立北の台小学校において、島倉海氏を講師に迎え、「スポーツリズムトレーニング～リズム×スポーツ～」をテーマに、理論実技研修を行



2. 研修会の成果

リズムに合わせて体を動かすことでリズム感を高め、運動のパフォーマンスを向上させることができるトレーニングであるということを学ぶことができた。日本人は盆踊りのリズムに慣れているため、8ビートや16ビートなどの裏打ちのリズムになると途端に難しさを感じるものであったが、それが見につくと相手の裏をつくことができ、パフォーマンスに役立つのだと感じた。日頃の授業でも準備運動などで活用できるものもあり、役立つ理論実技研修であった。



V. 部会研究の成果と課題

【 成 果 】

- 「運動好きの子どもを育てる」ために、育成すべき資質・能力を明らかにした体育授業の実践を蓄積できた。
- ICTを活用して、自分やチームの動きを可視化して、「わかる」につなげることができた。
- ICTを活用することで、児童が以前の自分や他者の動きと比較しながら考えることができた。
- 振り返りや動画を蓄積することで、評価に役立てることができた。
- 各校の実践をまとめ、会員に伝えたことで、様々な運動領域の事例を紹介できたとともに、保体部会員の実践を広く知らせることができた。
- 授業づくりサポート研修会では、新入会員に限らず多くの会員に参加していただき、今年度の研究について学習を深めることができた。

【 課 題 】

- ▲ ゆさぶり場面の方法やあり方について今後も工夫する必要がある。
- ▲ ICTの活用と運動量の確保のバランスについては、今後も工夫する必要がある。
- ▲ 市町村によって使用可能なアプリやソフトが異なるため、使いにくさや不便さがある。

(文責 八木 渚)